

平成30年度 佐賀県立神埼清明高等学校 学校評価結果

<p>1 学校教育目標</p> <p>人格の向上を目指し、現代人に必要な教養を高めるとともに、進展する時代の変化に創意をもって対応するために、主体的な学習の促進と個性の伸長を図り、心身ともに健全で調和のとれた社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①基礎学力の定着と向上を目指し、創意工夫したきめ細やかな「わかる授業」を行う。 ②キャリア教育の推進により、「第一志望達成100%」を目指す。 ③自主自律の生活態度を養い、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ④豊かな心を育む教育の充実を図る。 ⑤部活動の活性化に取り組み、活力に満ちた校風を醸成する。 ⑥地域に信頼される学校づくりを推進する。 ⑦学校における働き方改革を推進する。</p>
--	---

達成度 A:ほぼ達成できた
 B:概ね達成できた
 C:やや不十分である
 D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 基礎学力の定着と向上を目指し、創意工夫したきめ細やかな「わかる授業」を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・授業の充実、改善	・「わかる授業」を目指して、生徒の授業満足度を80%以上にする。	・各教科、学期に1回の研究授業を実施し、授業改善を促進する。	B	学校評価アンケートにおける生徒の授業満足度は、満足している、おおむね満足しているを合わせると、78.8%であった。	各教科における研究授業は、教科によって実施にばらつきがあった。授業力の向上のためにも研究授業の実施は継続していく。
		・授業における効果的なICT利活用	・ICTを使った研究授業を100%とする。	・各教科で実施する研究授業では、ICT機器を活用し、効果的な活用法について職員間の情報共有を図る。 ・学習用PCのアプリケーションの効果的な活用法について、校内で研修会を実施する。	B	研究授業では、実施した全職員が電子黒板及び学習用PCを活用した授業を行った。効果的な利活用という点では、課題が残る。	研究授業ではICT機器の効果的な利活用について情報交換をする。

② キャリア教育の推進により、「第一志望達成100%」を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育	・キャリア教育プログラムの再構築	・年度前半に社会の変化や生徒の実態等を踏まえた、育てたい生徒像を策定する。 ・年度後半に、育てたい生徒像を踏まえたキャリア教育プログラムを策定する。	・育てたい生徒像及びキャリア教育プログラムについて、全職員でグループ討議等を行いながら、職員間の共通理解を図る。	A	年度前半に「目指す生徒像」を策定することができた。目指す生徒像を踏まえたキャリア教育プログラムも策定した。	各学年、系列で実施するプログラムの目的を明確にし、職員間の共通理解を図る。
	○進路指導	・進路希望の実現	・第一志望の大学・短大・専門学校への合格100%とする。 ・就職内定率100%を目指す。	・進路検討会を充実させ、個々の生徒に適性に応じた確かな進路指導を行う。 ・進路に関する面接指導(相談)を充実させる。	A	第一志望の大学・専門学校等への合格、就職内定については概ね達成できた。	進路検討会を密に行い、生徒一人一人に応じた進路指導を行う。 進路に関する面接指導を充実させる。

③ 自主自律の生活態度を養い、基本的な生活習慣を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立 ・交通安全の意識向上	・時間やルールを守り、周囲に迷惑をかけない生活を送る。 ・自転車の交通ルールの遵守を徹底させる。	・定期的な服装指導を実施し、継続した指導を行う。その他、小さなことでも気づいたその場で指導する。 ・交通講話、登下校指導、自転車点検等を行い、交通事故防止、交通マナー向上に努める。	B	学校は、規律意識をもったマナーのよい生徒を育てようとしていると回答した生徒は95%、保護者は85%であり、学校の指導についての理解はみられた。 交通事故は大きな事故が夏季休業中に2件発生した。	服装指導は次年度も継続して行う。 交通講話、登下校指導等を行い、交通マナーの向上に努める。

④ 豊かな心を育む教育の充実。

教育活動	●心の教育	・読書の啓発	・図書館の一人当たりの貸出冊数が昨年度を上回る。	・朝の読書を充実させるため、図書館の活動内容や新着図書案内等の情報を発信する。	A	年間を通した一人当たりの貸出冊数は4.0冊であった。昨年より2.0冊増加した。	次年度も引き続き、図書館の活動内容や新着図書案内等の情報を発信する。
		・ボランティア活動の推奨	・校内に限らず、生徒が自主的に活動を場を広げていくよう支援することに努める。	・様々なボランティア活動、地域での活動の場を積極的に紹介していく。	A	部活動が主体となった桜マラソン、福祉系列のデイサービス等、様々な場面でボランティア活動を行うことができた。	次年度も継続してボランティア活動、地域での活動を支援していく。
	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見と組織的な対応	・生徒の様子を常に観察し、小さな兆候も見逃さない。	・いじめアンケートを年2回以上実施し、状況把握に努める。 ・学年、系列の縦・横の情報共有を密にし、教育相談との連携を図る。	A	学校評価アンケートの中で、85%の生徒、86%の保護者が「学校はいじめに適切に対応している」と回答していることから、組織的で迅速な対応を行うことができた。	「いじめ」に関するアンケートを年2回以上実施し、状況把握に努める。 教職員に対し、いじめ対応、生徒理解についての校内研修を実施する。

⑤ 部活動の活性化に取り組み、活気に満ちた校風を醸成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○部活動の活性化	・部活動の活性化	・部活動参加率を80%以上を維持する。	・未加入者に対しては、加入促進の指導を継続する。 ・加入率を高めるため、設置する部活動の在り方について検討する。	C	部活動には70%の生徒が加入した。設置する部活動について、十分な検討ができなかった。	次年度も引き続き加入を促進するとともに、魅力ある部活動の設置も含めた部活動の在り方について検討を継続する。

⑥ 地域に信頼される学校づくりを目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○情報発信	・ホームページの充実	・ホームページの更新回数とアクセス件数を昨年度以上とする。	・学校行事、系列の特色ある授業、体験学習、部活動の試合結果等を実施後すぐにホームページに掲載する。	A	今年度の更新回数は43件であった。昨年度より、21件増加した。	次年度も、各行事後すぐにHPの更新を行う。

⑦ 学校における働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	・校務の効率化の推進	・時間外の自発的勤務時間の月別平均時間が前年度を下回る。	・部活動は週1日の休養日(平日)と月1日の休養日(土日祝日)を徹底する。	C	時間外の自発的勤務時間は、昨年比72分増であった。 部活動の休養日も、一部の部活動で設定できない月があった。	定時退勤日、部活動の休養日の設定について、職員だけでなく生徒の健康管理の面からも徹底する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・健康に関する自己管理能力の育成	・保健室利用生徒数が昨年度を下回る。	・健康診断後の受診率を向上させるため、受信勧告書を早めに渡し、受診を促す。 ・保健委員が中心となり教室の換気を行い、感染症を予防する。	A	保健室利用生徒数は、昨年度より1290人減少した。	次年度も健康診断後の受診勧告書を早めに渡し、受診を促す。 保健室利用は、外科・内科的な利用と合わせて相談が多いため、教育相談室とも連携して対応していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

今年度は、全職員が学校教育目標の実現に向け取り組むことができた。また、保護者アンケートからは、本校の教育活動及び存在意義に対して概ね効果的な評価をいただくことができた。次年度も今年度に引き続き、保護者や地域との連携を大切にしながら、本校の教育活動に取り組んでいきたい。そのためには、生徒が意欲的、主体的に様々な教育活動に参加することができるよう、授業や学校行事の工夫など、改善に努めたい。さらに、効果的なICT活用教育の推進、アクティヴ・ラーニングの手法を取り入れた授業の構築についても、校内研修を活発にしながら充実させていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目
※ 重点目標に含まれない共通評価項目はない。